

平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
「HIV 感染妊娠に関する全国疫学調査と診療ガイドラインの策定ならびに診療体制の確立」班
研究分担報告書

研究分担課題名：HIV 感染妊娠に関する国民への啓発と教育

研究分担者：塚原 優己 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター 産科・医長
研究協力者：谷口 晴記 三重県立総合医療センター産婦人科・副院長
大金 美和 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターケア支援室・
看護師
井上 孝実 葵鐘会ローズベルクリニック・副理事長
山田 里佳 愛知厚生連海南病院産婦人科・医師
源河いくみ 東京ミッドタウンクリニック内科・医師
千田 時弘 兵庫県立がんセンター産婦人科・医師
渡邊 英恵 名古屋医療センター看護部・副看護師長
源 名保美 国立国際医療研究センター産婦人科病棟・看護師長
羽柴知恵子 名古屋医療センター外来・副看護師長
廣瀬 紀子 長野県看護大学・助教
笠原 弥恵 仙台医療センター母子医療センター・助産師
矢永由里子 慶應義塾大学感染制御センター・講師
佐野 貴子 神奈川県衛生研究所微生物部・主任研究員
鈴木ひとみ 国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センター・コーディネ
ーターナース
長與由紀子 九州医療センター感染症対策室・HIV 専任看護師
山下 結以 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 臨床心理士
中條 真澄 国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター産科・研究補助員

研究要旨：

当研究分担班の研究目的ならびに方法は、

市民公開講座の企画や他の団体や機関によるセミナーとの連携を行い、研究成果を広く周知することにより、国民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上を図ること。

である。

今年度は、

第 3 回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀：2017 年 6 月 17 日（土）～18 日（日）、会場；アバンセ

第 24 回 AIDS 文化フォーラム in 横浜：2017 年 8 月 4 日（金）～8 月 6 日（日）、会場；かながわ県民センター

第 7 回 AIDS 文化フォーラム in 京都：2017 年 9 月 30 日（土）～10 月 1 日（日）、会場；同志社大学新町キャンパス尋真館

に参加し、一般市民参加型の公開講座を開催し、市民の HIV 感染妊娠に関する認識と知識の向上をめざした。

また、特に若者への啓発が大切なことから、長野県看護大学学園祭において大学生を対象としたセミ

ナー「恋する君たちへ ～楽しく過ごすために性感染症について知っておこう～」(2017年9月9日(土)、会場；長野県看護大学)を開催した。

A.研究目的

国民に根強く残る HIV/AIDS への偏見を解消し、HIV 母子感染のみならず、HIV 感染をはじめとする性感染症全般に対する国民の理解向上および予防啓発に寄与する。

B.研究方法

行政や HIV 関連諸団体との連携を密にし、市民参加型の公開講座などで、当研究班の研究成果を広く国民に周知することにより、国民の HIV 感染妊娠及び性感染症全般に関する認識と知識の向上を図る。

当研究分担任から国民に発信する情報の主眼は、性感染症全般に関する現状及び予防策の紹介、性感染症のひとつである HIV 感染症の現状と予防策の紹介、HIV 母子感染の現状と予防策の紹介などである。

具体的な活動としては、例年全国各地域(横浜、京都、佐賀他)で行われている AIDS 文化フォーラムへの参加と、大学学園祭などにおける学生を対象とした公開講座を検討した。

第3回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀:2017年6月17日(土)～18日(日)、会場；アバンセ

第24回 AIDS 文化フォーラム in 横浜:2017年8月4日(金)～8月6日(日)、会場；かながわ県民センター

第7回 AIDS 文化フォーラム in 京都:2017年9月30日(土)～10月1日(日)、会場；同志社大学新町キャンパス尋真館

また看護大学生を対象とした初めての試みとして、長野県看護大学の協力のもと、2017年9月9日同大学学園祭において講演会を行った。これから生殖年齢を迎える若者が、性感染症について自分の問題と認識し、性感染症予防

のための知識の向上や自分とパートナーの健康について考える機会になるよう、研究班のデータを用いながら参加型の講義を行った。

(倫理面への配慮)

講演会の実施に際しては、HIV 陽性参加者の心情に十分配慮した。

C.研究結果

・第3回 AIDS 文化フォーラム in 佐賀:「女性と性感染症～性感染症の現状と妊娠出産との関係～」2017年6月18日(日)、会場；アバンセ 参加者約50名

今回、HIV を含む性感染症について、産婦人科専門医からの講義を行った。また最近の発生動向についてもお伝えし、近年増加傾向にある性感染症をもっと身近な問題として感じていただきたいと考えた。従来、性感染症報告の多くは男性だが、最近では女性が増加傾向にあり、問題となっている。また、性感染症にかかると HIV の感染リスクを高めることにもなることから、私たち研究班は HIV に関する予防啓発はもちろん、性感染症予防についても啓蒙していきたいと考えている。女性に焦点を当てた講義はフォーラムの中でも珍しく、多数の女性に参加していただき、参加していた方からも「他人事ではないと感じた」などの声を聞くことができた。また今回の講演では、日本における HIV 母子感染予防対策についても紹介した。HIV 陽性妊婦に早期から医療の介入を行うことで、母子感染は防ぐことができる。そういった実情を知っていただき、HIV 陽性者の妊娠出産についても理解が深まることを期待している。

・第24回 AIDS 文化フォーラム in 横浜:「あなたはホントに知っている!?～HIV 感染妊娠と性感染症のこと～」2017年8月5日(土)。

**会場；かながわ県民センター 参加者約 30 名
(満席)**

研究班の全国調査より HIV 感染妊娠の現状報告とともに、性感染症についての情報提供、治療や予防について説明を行った。

写真や最新のデータを多用したため、参加者も興味を持って頂いたようであった。30 名定員の会場は満員御礼となり、大変たくさんの方にご参加頂いた。

アンケートの結果、参加者の 7 割は医療系の学生や、保健医療福祉関係の仕事をされている方であったが、感想の中には、「HIV について知識がなかったので、自分に関係ないと思わないようにしたい」「わかりやすく、学びになった」といった意見が多く、医療関係者にも HIV や性感染症について、最新の情報は伝わりにくいことを感じた。

参加者のうち、その他 3 割は、教育関連、NPO/NGO の方が多くを占めていた。フォーラムの参加者は、HIV/AIDS に関心のある方が多く、関心を持っていないと、情報へアクセスすることは難しいのかもしれない。しかし、教育関連の方に多く参加頂いたことで、最新の知識が教育の現場で普及されることや、参加者が友人や知人に情報を伝達することで、幅広い年代の人に情報が行き渡ることを期待したい。

・第7回 AIDS 文化フォーラム in 京都：「女性と HIV ~ 学校では教えてくれないけど、知っておくべきこと」2017 年 9 月 30 日(土). 会場；同志社大学新町キャンパス 尋真館 参加者約 15 名

HIV を含む感染予防の基本である標準予防策についての解説と、HIV/AIDS の基礎教育の紹介を行った。HIV 感染予防教育として、HIV と AIDS の違いや HIV 感染のメカニズム、抗体検査の意味や HIV とその他の STI との関係について考えながら学習する教育方法を紹介した。

また、HIV 感染と妊娠について、日本におけ

る女性の HIV 感染者および妊娠・出産の現状と母子感染予防について説明した。HIV の母子感染は予防できるにも関わらず、妊娠中や母乳育児中に HIV への感染に気づかず母子感染した事例を紹介し、母子感染予防にとっても性感染症予防が大切であることを説明した。HIV 感染を他人事とせず自分のことと考えて「普段の生活の中から自分の体を大切にしていこう」というメッセージを伝えた。参加者からは HIV 感染女性が妊娠した場合の分娩施設や治療方法等についての質問があった。現状としてはエイズ拠点病院での出産が多いことや治療は基本的に妊婦でも変わらないことを伝えた。HIV 感染と妊娠についての情報は少ないため、今後も HIV 感染妊婦の現状や母子感染予防についての情報提供の場としていきたい。

・長野県看護大学学園祭：「恋する君たちへ ~ 楽しく過ごすために性感染症について知っておこう~」2017 年 9 月 9 日(土). 会場；長野県看護大学 参加者約 30 名

HIV を含む性感染症予防について、大学生を対象にしたセミナーを開催した。これから生殖年齢を迎える若者が、性感染症について自分の問題と認識し、性感染症予防のための知識の向上や自分とパートナーの健康について考える機会になるよう、研究班のデータを用いながら参加型の講義を行った。

大学の学園祭での開催であり、参加者は大学生と卒業生(1 年目の看護師や助産師)、学生の保護者などであった。アンケートの結果、セミナーの満足度は高く、「性感染症について改めて知ることができた。」など知識の向上や、「検査を受けようと思った。」など自分の健康について考えることができていた。内容の理解度については、「性感染症の予防・検査・治療」「性感染症と妊娠の関係」「HIV 母子感染予防」とも『できた・ほぼできた』と全員が答えており、参加型でわかりやすい内容であったと思われる。また、「身近な友人等に性感染症予防につ

いての知識を普及したいですか」の問いには全員が『はい』と答えており、参加者が友人等に伝達していくことで正しい性感染症予防のための情報が拡散することを期待したい。

D. 考察

今年度参加した3か所のAIDS文化フォーラムの参加者数は佐賀で約50名、横浜の満席(30名)と前年度より増加傾向にあったと思われる。自発的意思で参加した出席者自身が、今回の発表で聞いたこと、感じたことを、周囲の人に伝えていくことで、正しい知識や予防意識の普及に繋げていけることに期待している。可能であれば、来年度も今年参加した横浜、京都、佐賀の3か所のAIDS文化フォーラムへの参加が望まれる。各フォーラムでの一般参加者の更なる増加を目指して発表内容を検討したい。さらに、他の地方で開催されているAIDS文化フォーラム、具体的にはAIDS文化フォーラム in 陸前高田などの市民参加型イベントにも積極的に参加することを検討したい。

また、HIV/AIDSに特化したイベントとは別の視点から、これから生殖年齢を迎える若者をターゲットにした啓発活動も有効と考えられることから、各地の様々な大学が開催する学園祭への参加も検討していきたい。今年度は長野県看護大学学園祭において、看護大学生を中心に大学生を対象としたセミナーを組み相應の成果を挙げることができたが、来年度以降は、一般大学生(或いは一般市民)からも注目されるような企画を検討したい。

E. 結論

国民のHIV感染妊娠に関する認識と知識の向上をめざし、今年度は

第3回AIDS文化フォーラム in 佐賀:2017年6月17日(土)~18日(日). 会場; アバンセ

第24回AIDS文化フォーラム in 横浜:2017

年8月4日(金)~8月6日(日). 会場; かながわ県民センター

第7回AIDS文化フォーラム in 京都:2017年9月30日(土)~10月1日(日). 会場; 同志社大学新町キャンパス尋真館

に参加し、一般市民参加型の公開講座を開催した。

また特に若者への啓発が大切なことから、長野県看護大学学園祭において大学生を対象としたセミナー「恋する君たちへ ~楽しく過ごすために性感染症について知っておこう~」を行った。

G. 研究業績

1. 論文発表

(欧文)

(1) Miyuki Kawado, Shuji Hashimoto, Shin-ich Oka, Katsuyuki Fukutake, Satoshi Higasa, Hiroshi Yatsuhashi, Miwa Ogane, Manabu Okamoto, Takuma Shirasaka : Clinical Improvement by Switching to an Integrase Strand Transfer Inhibitor in Hemophiliac patients with HIV : The Japan Cohort Study of HIV Patients Infected through Blood Products, The Open AIDS Journal, Volume11 2017

(和文)

(1) 杉野祐子, 島田恵, 池田和子, 大金美和: HIV 感染症/AIDS 患者用知識尺度の作成と信頼・妥当性の検証, 日本慢性看護学会誌, 第11巻第1号, 2017

(2) 北村唯一(性の健康医学財団), 熊本悦明, 鈴木俊治, 田中政信, 松田秀雄, 塚原優己, 栗林靖, 関沢明彦, 宮崎亮一郎, 西井修, 中井章人, 水谷伸子, 木下勝之: 本邦妊婦における性器クラミジアの浸淫度調査結果 平成26年度日本産婦人科医会との共同調査. 性の健康 (1883-1478)16巻2号 Page37-38(2017.05)

(3) 佐野貴子, 嘉手苅将, 渡邊寿美, 近藤真規子,

黒木俊郎、田坂雅子、高橋智恵子、中村廣志、
鮫島まりな、山下 舞、田中 聡 國司洋佑
太田光泰、石田倫也、白井宏幸 . ヒトパレコ
ウイルス 3 型による小学生および成人の筋痛
症事例—神奈川県 . 病原微生物検出状況、38 :
127-128、2017

- (4) 佐野貴子、嘉手苅将、渡邊寿美、近藤真規子、
黒木俊郎、田坂雅子、寺西大、中村廣志：手
足口病およびヘルパンギーナ患者の発生動向
とエンテロウイルス検出状況—神奈川県 . 病
原微生物検出状況、38 : 193-195、2017

2 . 学会発表

(海外)

- (1) K Sudo, T Sano, M Kondo, T Kawahata, H
Fujiwara, N Hasegawa, S Kato.
COMPARATIVE EVALUATION OF THE
BIO-RAD GEENIUS(TM) HIV-1/2
CONFIRMATORY ASSAY AND THE NEW
LAV BLOT 1 AND 2 IN THE JAPANESE
POPULATION. 28th Regional Congress of
the ISBT. (2017/11/25-28, Guangzhou,
People's Republic of China)

(国内)

- (1) 杉野祐子、島田恵、池田和子、大金美和：HIV 感
染症/AIDS 患者用知識尺度の作成と信頼・妥
当性の検証、日本慢性看護学会誌、第 11 巻、第 1
号、別刷、2017 年 5 月発行
- (2) 木村聡太、小松賢亮、渡邊愛祈、霧生瑤子、大金
美和、池田和子、田沼順子、照屋勝治、塚田訓久、
瀧永博之、菊池嘉、岡慎一：当センターにおける
HIV カウンセリング受療者の特徴の報告 - 後
方視的調査 -、第 31 回日本エイズ学会学術集
会・総会、中野区、2017.11.24
- (3) 渡部恵子、大野稔子、藤田和華子、佐々木晃子、伊
藤ひとみ、須藤美絵子、川口玲、高山次代、羽柴知
恵子、東政美、丸山栄子、長與由紀子、杉野祐子、
大金美和、池田和子：全国エイズ診療拠点表院
の HIV/AIDS 看護体制に関する調査 (1) ~

患者ケア実施の現状と課題に関する検討 ~、
第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会、中野
区、2017.11.24

- (4) 佐々木晃子、須藤美絵子、伊藤ひとみ、渡部恵子、
大野稔子、藤田和華子、川口玲、高山次代、羽柴知
恵子、東政美、丸山栄子、長與由紀子、杉野祐子、
大金美和、池田和子：全国エイズ診療拠点病院
の HIV/AIDS 看護体制に関する調査(2) ~ 患
者相談内容とその課題からみる HIV 担当看護
師への支援に関する検討 ~、第 31 回日本エイ
ズ学会学術集会・総会、中野区、2017.11.24
- (5) 川戸美由紀、橋本修二、大金美和、岡慎一、岡本学、
福武勝幸、日笠聡、八橋弘、白阪琢磨：血液製剤
による HIV 感染者の調査成績第 2 報 生活状
況の概要、第 31 回日本エイズ学会学術集会・
総会、中野区、2017.11.24
- (6) 阿部直美、大金美和、久地井寿哉、岩野友里、
柿沼章子、大平勝美、紅粉真衣、小山美紀、池田
和子、田沼順子、菊池嘉、瀧永博之、岡慎一、木村
哲：HIV 感染血友病患者の新たなサポート形
成とコミュニティ構築の必要性、第 31 回日本
エイズ学会学術集会・総会、中野区、2017.11.24
- (7) 小山美紀、大金美和、阿部直美、谷口紅、紅粉真衣、
鈴木ひとみ、久地井寿哉、岩野友里、柿沼章子、大
平勝美、池田和子、田沼順子、瀧永博之、菊池嘉、
岡慎一、木村哲：HIV 感染血友病患者の効果的
な社会資源利用についての検討：第 31 回日本
エイズ学会学術集会・総会、中野区、2017.11.24
- (8) 田中瑞恵、飯田敏晴、川崎洋平、井出和希、外
川正生、塚原優己、吉野直人、喜多恒和、細川
真一、瓜生英子、山中純子、大熊香織、山田浩、
菊池嘉、岡慎一、七野浩之；HIV 感染児にお
ける認知機能と臨床経過の関係：第 31 回日本
エイズ学会学術集会・総会、中野区、2017.11.24
- (9) 吉野直人、杉浦敦、高橋尚子、伊藤由子、杉山
徹、田中瑞恵、谷口晴記、蓮尾泰之、稲葉憲之、
和田裕一、塚原優己、喜多恒和；我が国の妊婦
HIV スクリーニング検査実施率の推移と妊娠
後期での検査実施の現状：第 31 回日本エイズ

学会学術集会・総会,中野区,2017.11.24

- (10) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、川畑拓也、小島洋子、森治代、井戸田一朗、岩室紳也、立川夏夫、藤原宏、長谷川直樹、加藤真吾．新規 HIV 抗体確認検査試薬である Geenius HIV Confirmatory Assay の検討．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会．(平成 29 年 11 月 24-26 日、東京)
- (11) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、加藤真吾、市川誠一、今井光信．保健所等公的検査機関を対象とした HIV 検査相談体制に関するアンケート調査．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会．(平成 29 年 11 月 24-26 日、東京)
- (12) 近藤真規子、佐野貴子、長島真美、貞升健志、蜂谷敦子、横幕能行、林田庸総、瀧永博之、渡邊大、吉村幸浩、立川夏夫、岩室伸也、井戸田一朗、今井光信、加藤真吾、椎野禎一郎、吉村和久．日本で流行する HIV-1 CRF01_AE と周辺アジア諸国における流行株との関連．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会．(平成 29 年 11 月 24-26 日、東京)
- (13) 川畑拓也、小島洋子、森治代、佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、加藤真吾．新しい HIV 確認検査試薬“GeeniusTM”の性能評価．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会．(平成 29 年 11 月 24-26 日、東京)
- (14) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村哲、加藤真吾．HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2016)．第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会．(平成 29 年 11 月 24-26 日、東京)
- (15) 紅粉真衣、大金美和、小松賢亮、近江峰子、久地井寿哉、岩野友里、柿沼章子、大平勝美、阿部直美、鈴木ひとみ、池田和子、渡辺恒二、田沼順子、菊池嘉、瀧永博之、岡慎一：遺族検診受診支援事業における HIV 感染血友病患者の遺族の現状と課題
- (16) 佐野貴子、星野慎二、井戸田一朗、加藤真吾、市川誠一、今井光信．全国保健所にお

ける梅毒検査の実施状況調査．第 76 回日本公衆衛生学会総会．(平成 29 年 10 月 31 日-11 月 2 日、鹿児島)

3. 講演

- (1) 大金美和、治療継続支援と社会資源の活用、第 66 回日本感染症学会東日本地方会学術集会、第 64 回日本科学療法学会東日本支部総会、合同学会、東京、京王プラザホテル、2017/10/31-11/2
- (2) 佐野貴子．HIV 検査．AIDS ネットワーク横浜第 25 期 AIDS ボランティア学校．横浜 AIDS 市民活動センター．(平成 29 年 7 月 15 日、横浜)

H.知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得 なし
- 2.実用新案登録 なし
- 3.その他 なし